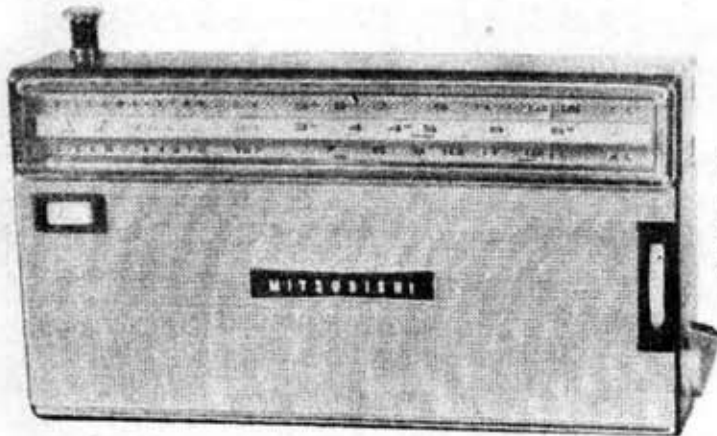
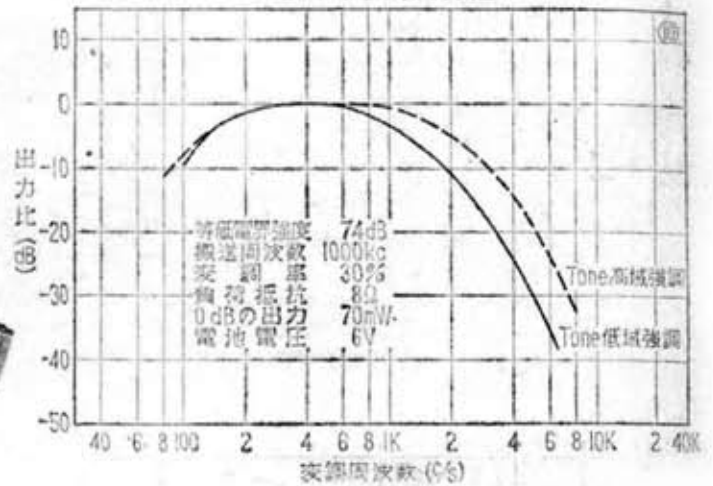


# 三菱 9石 3 Band 9X-900 形



電氣的忠実度特性



## 回路構成

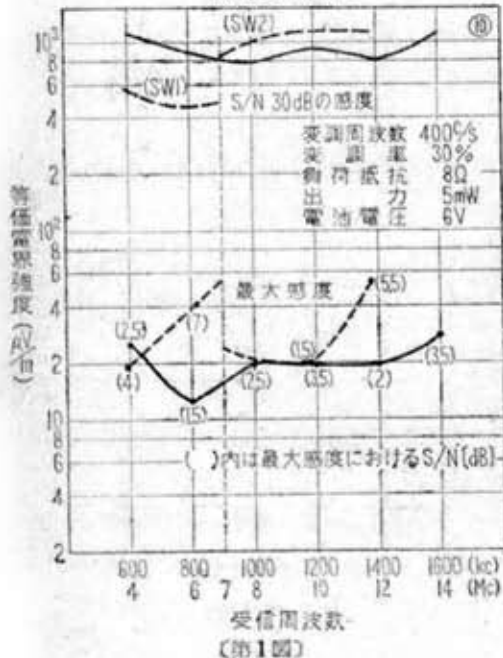
3バンド、9石、高周波増幅付きのオールウェーブラジオで、普通の中波のほかに、3.5~6.8 Mc と 6.7~12 Mc の短波放送も受信できる

9石のトランジスタは、2個のダイオードを含めて、同調式RF増幅、局発、周波数混合、2段の低周波増幅、およびB級プッシュプル電力増幅によるヘテロダイン回路。

## 測定結果

感度特性は S/N=30 dB のとき、中波が 58 dB 前後、短波 SW-1で 54 dB 前後であるからよいが、SW-2は SW-1に比べ、少し落ちている。しか

### 感度特性



し、中波の実用感度での感度差などはいへん少なくてよい。

ただし、中波のフェライト・コアはそれ専用。

出力は、無ひずみで 250 mW あり、十分である。

妨害特性は、イメージ、中間周波とも両バンドにわたって非常に良好。

選択度は、左右わずかに不釣合だが、減衰傾度も 22.5 dB/octave ずつあつてよい。そして通過帯域幅は 4.8 kc。

ひずみ特性は、中信号入力 (1000 kc) 時で 2.5% くらいだからよい値である。

電氣的忠実度はふつうで、音質調節も割合に効いている。

## (第3圖)

AVC特性は 48.5 dB あるから、十分である。AVCの効き具合については、別項にでも書いたとおりだが、この特性でいえば、電界強度 95 dB (0 dB=1 $\mu$ V/m) のときと、それが、45 dB のときで、わずか 10 dBしか出力が変わらぬことになっている。つまり都心のビル街なら、道路でだいたい 95 dB 前後の電界強度のところがある。しかし、道1つ曲がつただけで 50~60 dB に落ちることはさらにある。こんな場合、本機なら、せいぜい 5 dB と出力が変わらないので、耳にはほとんどわからずにすむというわけだ。

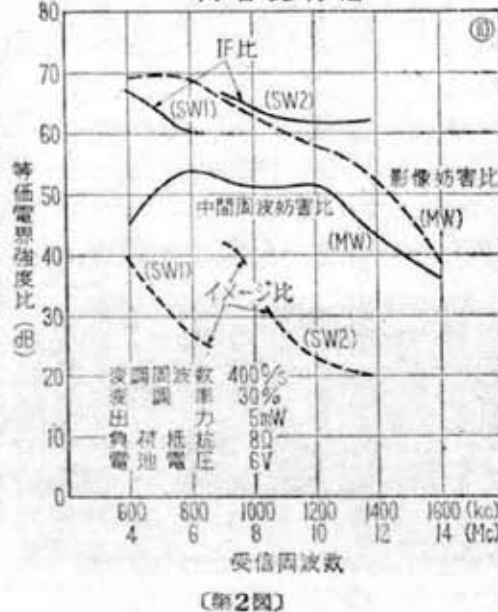
## その他

外観は、銀色のパネルを用いた黒のプラスチックキャビでできていて、感じがよい。

ダイヤルは、バンドが3階だてに入つていて、そのツマミは前面右にある。バンド切換えと短波用微調は右側にあり、スイッチ兼ボリュームとトーンは左側にある。

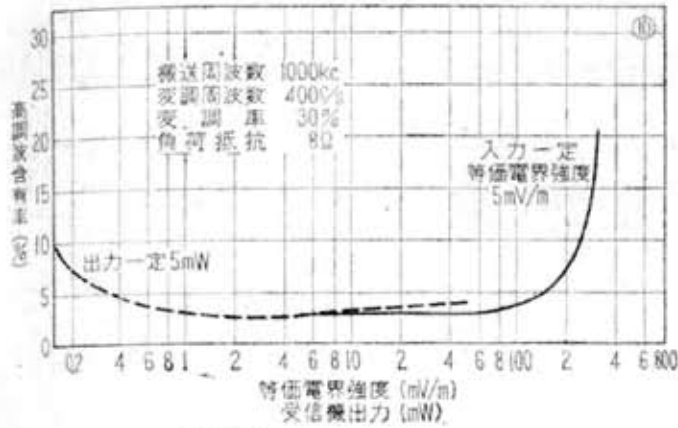
フェライト・コアは中波用と短波用(2バンド)とに1本ずつつけてあり、バリコンはボリバリである。ロッド・アンテナは自蔵で短波をきくのに便利だし、キャビの裏ぶたに、長い間きかないときは、電池を取外して下さい。とあるのは保守上

## 妨害比特性



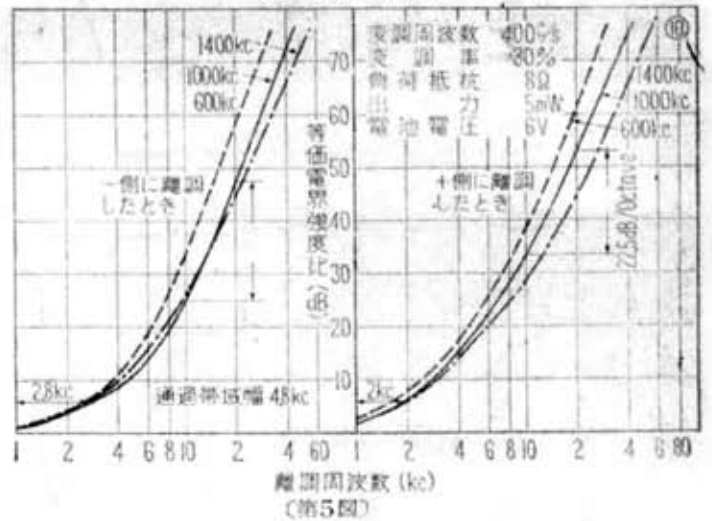
現金正価 14,500 円

## ひずみ特性

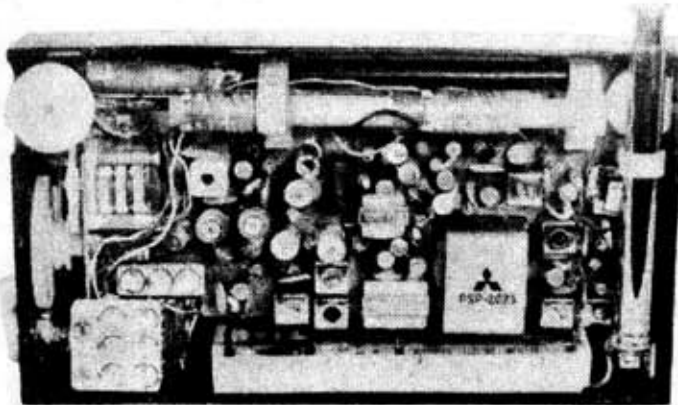


(第4図)

## 選択度特性



(第5図)

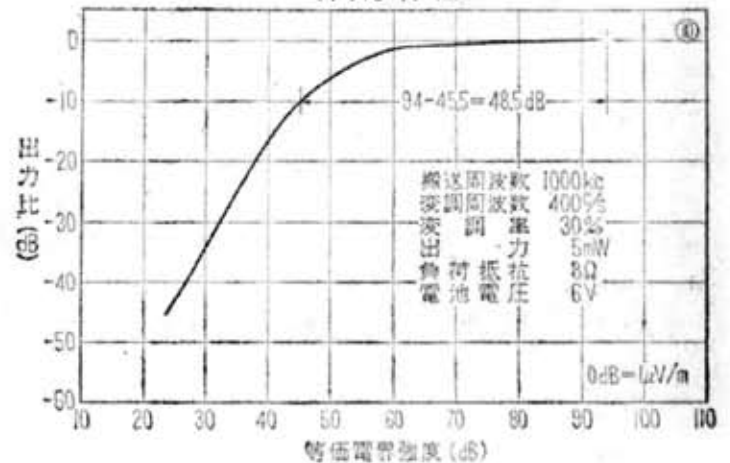


親切 (たいていは案内書にかいてあるが、それよりもこの方が実用的)。

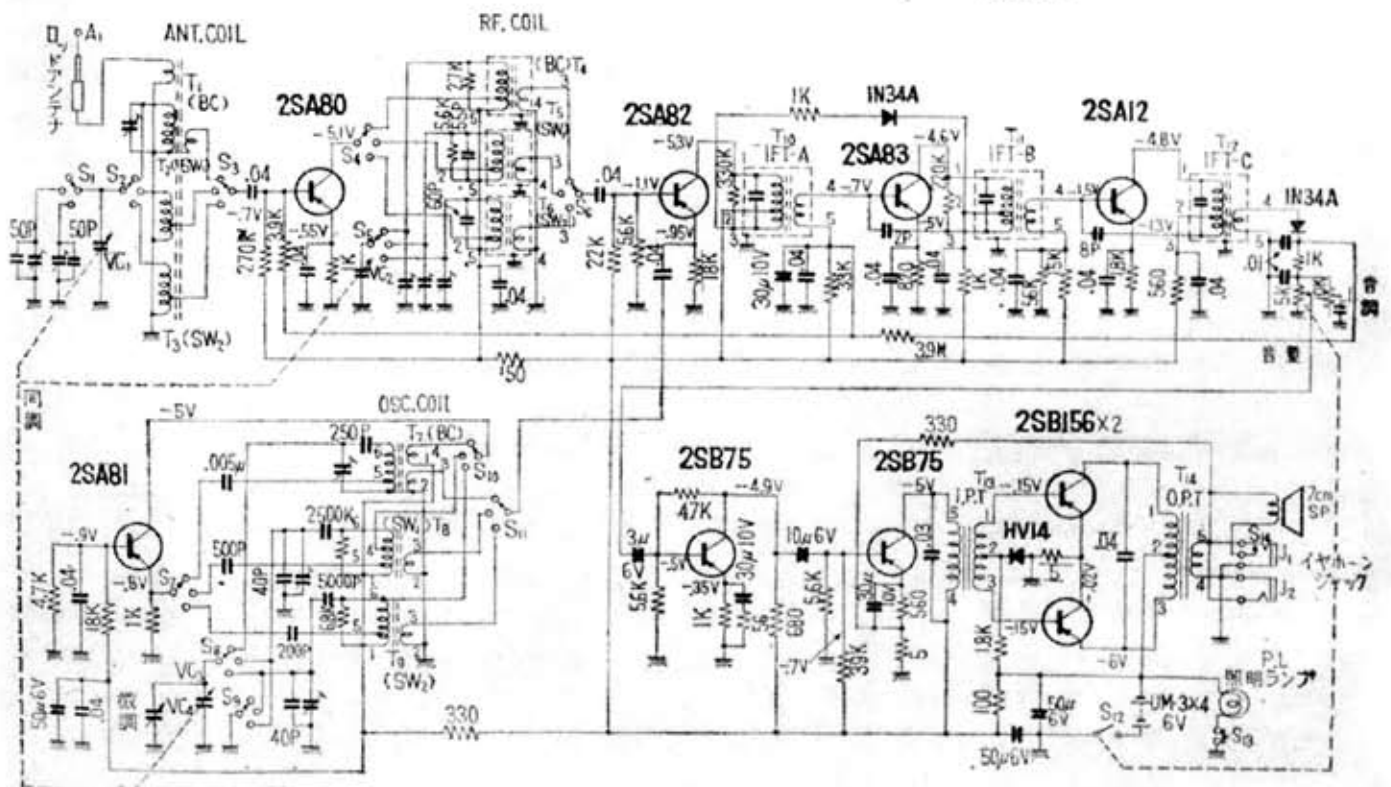
なお本機には、暗い場所での選局の

ためにプッシュ式ダイヤル照明ランプがついている。

## AVC特性



(第6図)



(第7図)